

その他の金属製品製造業におけるシャーを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	14~15	1F工場で、板を切っている際、ペダルを2回踏んでいることを忘れシャーリングの裏に回り、切った。板を取ろうとした際、シャーリングの刃で左手親指の先端を切り落としてしまった。	32	1~9
5	3~4	ステンレス鋼板（厚2.0mm×幅1030mm）をスリットする為、ライン通板作業を行おうとしていた。取合せ作業の為、鋼板を前作業終了後、シャーでカットしてあった。被災者Aは、刃物前まで鋼板を送り込んでおこうとペンダントスイッチを操作し鋼板を進めた。入側シャーの出側100mmの所にある、支えロール（Φ100）下に鋼板先端が潜り込み操作を止めた。被災者は、鋼板先端下部にダンボールを当てれば、支えロール下に鋼板先端が入らないと考え、左手でダンボールを持ち、右手でペンダントスイッチを操作し、鋼板を進めようとしたが、ペンダントスイッチを操作した瞬間に鋼板先端が支えロール下部から外れ跳ね上がり、ダンボールを持っていた左手の平側薬指付け根に鋼板先端角が接触し切創した。原因は、鋼板先端が下反りで支えロール下に潜り込んだ際に支えロール前テーブルの片側（WS）のネジが外れ脱落していたためと考えられる。通板作業時は鋼板先端をリールまで戻し、上反りにしてから通板する手順が守られていなかった。	22	50~99
6	16~17	自社工場内において、切断機にて鉄筋の切断作業中、材料詰まりがあったため手を入れて除去しようとした際、誤ってスイッチを入れてしまい、刃が落ちてくるところに左手小指を挟み負傷した。	52	10~29
11	9~10	鉄板を切断する機械で左小指を挟み切断してしまった。鉄板を切断する機械は足踏み操作で、鉄板を固定して切断する。鉄板を固定する時に間違っ小指を挟んだまま切断してしまった。	21	1~9

11	15～ 16	当社工作作業場において、鉄板を製品化するための作業中、右手の手袋がシャーリングマシンに引っ掛かり、右手薬指を負傷する。	62	1 ～ 9
12	11～12	工場内にてシャーリング（鋼板裁断機）の作業をしていたところ、加工中の鋼板に手を添えていたため、裁断の際に鋼板がバウンドして鋼板とシャーリングの盤上に左手親指を挟み、先端を負傷した。	37	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html